

『税の仕組みはどんなもの』

宮代町立前原中学校 2年 川島 実生

私はこの夏、『アフリカでバックの会社はじめました』という本を読みました。この話は千津さんという日本人が、シングルマザーに働ける場を作る話です。それを読んで子育てに教育費がかかることを知り、私の住んでいる宮代町では保育料などの子育てにかかる費用にどのような仕組みがあるのか調べてみました。

宮代町では収入に応じて保育料が異なっていてシングルマザーでも安心して、保育園に子供を預けることができます。それを補うために税金が使われているそうです。調べてみると、これを「負担公平原則」ということが分かりました。例えば、保育料が一律で5万円の場合、月収100万円の家計に占める保育料の割合は5%で、月収20万円では25%となります。これでは保育を受ける上で不公平となります。そこで、保護者の負担能力に応じて、公平に負担されるべきという負担公平原則に基づき、保育料を決定しています。誰も保育料の負担がなく、子供を保育園に預けられるのだなと思いました。

調べているうちに、税金も公平の原則であることが分かりました。例えば、年収500万円の人と年収3000万円の人がいたとして、どちらも同額の所得税を課せば、年収500万円の人の負担が大きくなります。現在の日本の所得税は公平の観点から、所得税が上がれば上がるほど、所得に対する所得税の割合を高く設定しているそうです。

私は収入に対して払う税の割合が決まっていることを初めて知りました。保育料が異なり、それを補っているのが税で、その税も人によって異なっているという関係がとても複雑だけれど、負担を公平にしているのがとても大切なことだなと思いました。また、税金がこのように集められていることで、すべての人が安心して暮らせるようになっているのではないかということも感じました。

税金の使い道についても調べてみると、宮代町では治水対策にも税金が使われていて、川が氾濫しないように工事していることが分かりました。それ以外にも、洪水から町を守るため、水田やその周りの用水路の整備にも町の税金が使われています。

つまり税金は、保育料のように一人一人の生活を支えるために使われているものと、治水対策のように町全体のために使われているものがあると気付きました。

私は税の仕組みについて知り、人のため、町のために使われている税にとっても関心を持ちました。税によって、人と人をつなげ、人と町をつなげて、人々や暮らしを守っているのだなと思いました。これからの生活で、もっと税について知り、自分が大人になったときに「この税金は、人や暮らしを守るためだ」ということを忘れずにいたいです。そして、もっといろいろな人に税の仕組みを知ってもらいたいです。